

高等学 校

平成 2 7 年度

教育研究員研究報告書

家 庭

東京都教育委員会

目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の視点	2
III	研究の仮説	3
IV	研究の方法	4
V	研究の内容	8
VI	研究の成果	23
VII	今後の課題	24

家庭部会	生活を主体的に営み、問題解決に向けて行動する力を育む学習指導の在り方について
-------------	--

I 研究主題設定の理由

グローバル化、少子高齢化、知識基盤社会の進展など、変化の激しい社会においては、人との関わりの中で課題を解決し、社会にとって意味のある解を提案し、社会自体をよりよい方向へ変化させていくことができる「生きる力」を有した人間が求められている。

国立教育政策研究所は、「社会の変化に対応する資質や能力を育成する教育課程編成の基本原則」（平成25年3月）において、このような「21世紀を生き抜く力」について、「21世紀型能力」と示した。

「21世紀型能力」は、「思考力」を中核とし、それを支える「基礎力」と、思考力の使い方を方向付ける「実践力」の三層構造になっている。具体的には、以下のように示している。

- 「思考力」
一人一人が自ら学び判断し自分の考えをもって、他者との話し合い、考えを比較吟味して統合し、よりよい解や新しい知識を創りだし、更に次の問いを見付ける力
- 「基礎力」
言語、数、情報（ICT）を目的に応じて道具として使いこなすスキル
- 「実践力」
日常生活や社会、環境の中に問題を見付け出し、自分の知識を総動員して、自分やコミュニティ、社会にとって価値のある解を導くことができる力、解を社会に発信し協調的に吟味することを通して他者や社会の重要性を感得できる力

「21世紀型能力」では、生きる力を調和的に育むという理念事態に今一度立ち返って、学力の三要素から、教科・領域横断的に求められる基本的な能力を「基礎力」として、それに基づいて様々な課題を解決するための中核となる能力を「思考力」と位置付け、さらにその使い方を方向付け、実生活で活用していくための能力を「実践力」としている。「21世紀型能力」は、「何を知っているか」から「何ができるか」へと教育の在り方を転換し、教育の内容、方法、評価の改善を促すことを目指している。

本年度の教育研究員全体テーマは「思考力・判断力・表現力等を高めるための授業改善」であり、高校部会テーマは『「思考力」、「基礎力」、「実践力」を育むための、主体的・協働的な学習指導の在り方』である。

高校家庭部会では、「思考力」を生活における課題解決に向けて適切に判断し試みる力、「基礎力」を生活に必要な基礎的・基本的な知識と技術を習得し、それらを活用し生活の課題を発見する力、「実践力」を他者と力を合わせ、新しい価値を創造し、生活を主体的に営み行動する力と位置付け、研究を進めて行くこととした。

共通教科「家庭」では、人々が互いに関わり合いながら共に生きる社会の一員としての自覚の下で、男女が協力して家庭生活を築いていく意義と責任をもたせ、生活に必要な知識と技術を身に付けて、主体的に家庭や地域の生活を創造する能力と実践的な態度を育てることを目指している。また、共通教科「家庭」の内容には、課題解決学習であるホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動が位置付けられており、「何を教えるか」から「何を考えさせるか」を重視

した取組や活動を取り入れやすい。課題解決学習を取り入れた学習は、生徒の主体的・協働的な学びを高め、生徒の「思考力」、「基礎力」、「実践力」の育成につながるといえる。

生徒の実態を見てみると、「第2回放課後の生活時間調査 子どもたちの時間の使い方」（ベネッセ教育総合研究所 平成25年11月調査）における高校生の実態を見てみると、70.4%の高校生が「忙しい」と感じており、「平成23年度社会生活基本調査」（総務省）を見ると、15歳～19歳の男子が4分、女子は9分と、家事時間に関わる時間が短いことが分かる。また、『子供のお手伝い』調査（花王生活者研究センター 平成23年2月～3月調査）をみると、当時小学4年から6年の児童のお手伝いをしている割合が男子が30.6%、女子が36.3%であり、お手伝いをしている割合も多いとはいえない。当時小学6年生の児童は、今年は高校1年生になっていることになるが、上記の調査等から、生徒は学習した知識や技術を家庭生活において十分に生かしているとは考えにくく、生徒自身が自分が主体となった家庭生活をイメージしにくい状況にあると考えられる。

一方、「学習指導と学習評価に対する意識調査報告書」（平成21年度文部科学省委託調査報告書 平成22年1月 財団法人日本システム開発研究所）を見てみると、教員自身やあるいは勤務する学校が日頃どのような授業や学習指導を心掛けているかという調査では、「児童生徒がグループで話し合い、考えをまとめる授業」においては、小学校32.7%、中学校26.8%に対し、高等学校は、6.2%と低い。また、「振り返りシートなどにより、児童生徒自らに学習状況を評価させる授業」においては、小学校8.0%、中学校12.7%に対し、高等学校は2.5%と低い。このような実態から、授業において他者と関わりながらコミュニケーション能力を高める機会が十分ではなく、自分の意見や考えを他者に伝えたり、他者の意見や考えからよりよい解決策を見いだす経験も十分でないといえる。

以上のことから、生徒が他者と関わりながら主体的に課題を解決する機会を積み重ねることで、課題解決における自己の取組を振り返り、よりよい課題解決を見だし実践することができると考え、研究テーマを「生活を主体的に営み、問題解決に向けて行動する力を育む学習指導の在り方について」と設定し、授業実践に取り組むこととした。

Ⅱ 研究の視点

本年度の高校部会の研究テーマは『「思考力」「基礎力」「実践力」を育むための、主体的・協働的な学習の在り方』である。本研究では、以下の2点の視点から、研究及び検証授業を行うこととした。

1 生徒が生活者としての主体性をもって、家庭生活における課題を見いだす視点

部員の所属校における生徒の実態は、小学校「家庭」、中学校「技術・家庭」の学習の中で、調理実習や被服製作に取り組んでいたにもかかわらず、例えば、調理実習では、皮むき器で人参の皮をむきすぎてしまい可食部が少なくなってしまうたり、千切りや半月切りなどの切り方が分からずスムーズに実習に取り組めなかったりする。被服製作においては、しつけ縫いや並み縫いが分からないなど、基礎的・基本的な知識や技術の習得に課題があると実感している。

そこで、基礎的・基本的な知識や技術の習得を目指すとともに、小・中学校における家庭科の学習を振り返り、自己の家庭生活において、必要な知識と技術は何か、生かせる知識と

技術は何かを考え判断させることで、生活者としての視点をもたせ、家庭生活における課題を見いださせることとした。

2 家庭生活の課題解決に向けて、自分の考えを深化させ、解決に向けて行動する視点

見いだした課題解決の方策を考える過程において、自己の考えを他者に分かりやすく説明したり、他者の考えや意見を聞いたりして自分の考えを再構築したりする学習活動をとおして、よりよい人間関係を築き、自分の考えを深め、新しい視点をもって課題解決を図ることとした。一人では気が付かなかったことに気付くことで、「やってみよう」、「よりよくしてみよう」と、生徒自身のやる気を喚起し、各自の生活において実践することを重視することとした。

Ⅲ 研究の仮説

主題設定の理由に示した、家庭科における思考力・基礎力・判断力を育むためには、生徒が生活者として主体性をもって家庭生活を捉え、課題を見だし、課題を解決する学習が重要である。

生活者としての主体性をもたせるためには、基礎的・基本的な知識が身に付いているかどうか生徒の実態を踏まえるとともに、生徒の学習意欲や関心をより一層引き出すことが必要であると考えた。生徒の学習意欲や関心を高めるためには、これから学習しようとする単元において、生徒が必要としている知識や技術が、小中学校段階でどの程度身に付いているのかを事前に教員が把握した上で学習目標を設定し、知識と体験が結び付くような学習活動を展開する必要があると考えた。生徒が小中学校で学んだ家庭科に関する学習を振り返り、家庭生活において生かせる知識と技術は何かを判断し、これからの学習で何を学び修得するかを明確にすることにより、家庭科で学んだことを生かして家庭生活をよりよくしようとする意識が深まると考えた。自分の生活は自分で創るという生活者としての主体性をもたせる授業の工夫が必要である。

また、生徒が生活者として主体性をもって家庭生活を振り返ることで、家庭生活における課題を見だし、課題解決を図るためには、課題を解決するための様々な方策を導き出し、「これなら自分でもできる」、「やってみよう」という意欲を喚起し、課題解決に向けて実践することが重要である。課題解決に向けて、自分の考えを深化させる学習活動を取り入れることで、課題を解決するための行動力を喚起し実践することができると思った。

生徒が自己の考えを深化させるには、自分の考えや意見を他者に伝えたり、他者の考えや意見を聞いて自分の考えを振り返ったりする学習活動を設定する必要がある。また、他者の考えや意見を適切に判断し、自己の課題解決に至る方策を検討し決定するためには、授業において、自分の考えを整理しまとめる取組が必要である。

以上のことを踏まえ、本研究では、以下のように仮説を設定した。

- 1 単元の学習前に、これまでの家庭科の学習を振り返り、自分の生活に必要な知識や技術は何か、生かせる知識と技術は何かを考え判断させることで、生活者としての主体性をもたせることができる。
- 2 家庭生活における解決すべき課題について、自己の考えを深化させることで、問題の解決を図ったり、新たな課題を発見したりして、生活をよりよくするために「やってみよう」

という行動力を喚起することができる。

IV 研究の方法

研究主題に基づき研究するに当たり、他者と関わる学習活動を通して、生徒自身が気付いたり、実践する力を高めるために、ワークシートとして「シャボン玉マップ」、「シンキングシート」、「アクションシート」を作成し、活用することとした。

1 ワークシートの活用

(1) 生徒の実態を把握するための「シャボン玉マップ」の作成

ア 「シャボン玉マップ」とは【図1】

学期始め、学習の各単元において、生徒が必要としている知識と技術は何か、生かせる知識と技術は何かを、生徒とともに事前に教師が把握し、教員と生徒の間で学習目標と学習内容の共有化を図るために作成するワークシートである。

イ 活用方法

教師が単元の学習に当たり、生徒が記述した言葉や内容を基に学習目標を設定する際に活用する。また、生徒が学習目標の達成に向けて、何をどのように学び、どのような力を身に付ける必要があるのか、自己の課題を把握し、達成すべき目標をもち、その後の授業に対する学習意欲や関心を引き出す授業を展開する際にもその都度活用していく。

「シャボン玉マップ」は、必要としている知識や技術のうち、既に生かすことができるものは赤色で、「これから身に付けたい」、「できるようになりたい」ものは青色を塗るなど、色分けすることで生徒の実態を確認することとした。

「シャボン玉マップ」は、学習のまとめや単元のまとめの際に振り返り、どれだけの知識や技術が身に付いたのか、再度色分けをさせることで、生徒が学習した内容をどの程度到達することができたのか、実態を確認することとした。

(2) 自己の考えを深めるための「シンキングシート」の活用

ア 「シンキングシート」とは【図2】

家庭生活における自分の考えをまとめ、他者との関わりを通して自己の考えを整理し、深化させるために作成するワークシートである。

イ 活用方法

「シンキングシート」は、シャボン玉マップの記載内容を基に、生徒の実態に合わせてテーマを設定し、ペア学習やグループ学習など他者と関わる学習活動しながら活用する。生徒は、次の項目順に沿って考えを整理し、記述していく。

Step 1 「考えてみよう」：テーマに沿って自分の考えを整理し文章で表現する。

Step 2 「話し合ってみよう」：自己の考えを基に、他者と意見交換をする。

【図1 シャボン玉マップ】

Step3 「もう一度考えてみよう」

他者と自己の意見や考えを比較検討し、自分の考えを再構築していく。他者との話し合いを通して、新しい視点で自己の考えを整理したり、一人では気が付かなかったことに気付いたりするなど、課題解決に向けた方策を検討するために自己の考えを深めていくようにする。

Step4 「これからの生活課題は何だろう」

話し合いや自己の考えの再構築させる学習活動を通して、今後の自分の生活における課題に気付かせる。これにより、生活の中で課題解決のために継続し行動することを意識させ、実践力を育てていく。

Step5 「振り返ってみよう」

他者と関わる学習活動や自己の考えを整理したあとに、自己の学習活動の振り返りの時間を設定し、自己評価を行う。

シンキングシートは、生徒がテーマに基づいて時間を有効に活用しながらペア学習や話し合い学習ができるよう、生徒の実態に応じて、基本となるシンキングシートを基に、事例ごとに変更することとした。

(3) 課題解決を図るための「アクションシート」の作成

ア 「アクションシート」とは【図3】

「シャボン玉マップ」や「シンキングシート」を踏まえ、生徒が自己の家庭生活における課題を設定し、改善に向けて実践したことを記録し整理するためのワークシートである。

イ 活用方法

「シンキングシート」作成後、生徒が授業を振り返り、家庭生活における

【図2 基本となるシンキングシート】

シンキングシート (月 日 No.)

テーマ 「 」

Step1 考えてみよう

Step2 話し合ってみよう

Step3 もう一度考えてみよう

Step4 これからの生活の課題は何だろう

Step5 振り返ってみよう

テーマについて考えましたか？	星いくつ？
自分の考えを伝え、意見交換できましたか？	☆☆☆☆☆
自分の考えは深まりましたか？	☆☆☆☆☆
新しい課題を発見しましたか？	☆☆☆☆☆

年 組 番名前

<実践事例1 シンキングシート>

妊婦体験教材を着用して、日常の動作を体験しよう。

【事例1】シンキングシート (月 日 No.)

テーマ 「妊婦体験から母体の健康と自己の課題を考える」

Step1 考えてみよう

Step2 話し合ってみよう

体験したいこと (体験者にしてほしいこと)

→観察メモ (体験者の様子を観察しよう)

Step3 もう一度考えてみよう

体験して (観察して) 分かったこと・気付いたこと

Step4 これからの生活の課題は何だろう

Step5 振り返ってみよう

テーマについて考えましたか？	星いくつ？
自分の考えを伝え、意見交換できましたか？	☆☆☆☆☆
自分の考えは深まりましたか？	☆☆☆☆☆
新しい課題を発見しましたか？	☆☆☆☆☆

年 組 番名前

妊婦中の生活についてイメージしてみよう。どのように日常の生活を行っているだろうか？

体験してみたいことをグループで話し合おう。体験者を決めよう。

体験してみたいことや、観察して気づいたことを整理しよう。

妊婦や乳幼児を取り巻く環境

いば、社会の一員としての自己の課題

将来、親になるときの課題は何だろう？

課題を見だし解決を図る際に取り組んだことを記録していく。学習内容や学習活動の状況に応じて、「アクションシート」を作成し、取組内容について確認することで、実践力の達成状況を把握していく。

授業において発表することも想定し、取組内容を簡潔に整理しまとめ、他者に分かりやすく伝えることができるように工夫した。また、どんな課題でも、その解決に向けて取り組んだことは、手軽に記録にまとめられるよう、記録する項目は必要最低限の項目とし、思い立ったときに行動し記録できるよう、用紙の大きさはA6判とした。

以上、三つのワークシートを活用し、「問題を発見し解決策を考える」、「計画を立て実践する」、「実践について振り返り評価する」という学習活動を繰り返すことで、生活を主体的に営み、問題解決に向けて行動する力を育てていく。

<実践事例2 シンキングシート>

【事例2シンキングシート (月 日 No.)

テーマ「高校生が考える、高校生の食生活改善」

Step 1 高校生に食生活改善を提案してみよう

①班で考えた課題
②班で考えた解決策

Step 2 他班の発表を聞いてみよう

①他班の考えた課題	①他班の考えた課題
②他班の考えた解決策	②他班の考えた解決策
③発表を聞いて気付いたこと、考えたこと	③発表を聞いて気付いたこと、考えたこと

Step 3 今すぐ実践できる食生活改善は何か考えてみよう

Step 4 振り返ってみよう

テーマについて考えましたか？	☆☆☆☆☆
自分の考えを伝え、意見交換できましたか？	☆☆☆☆☆
自分の考えは深まりましたか？	☆☆☆☆☆
新しい課題を発見しましたか？	☆☆☆☆☆

年 組 前 番 名

<実践事例3 シンキングシート>

【事例3シンキングシート 組 番 氏 名

テーマ「調理実習を通して食生活の改善を図ろう」

Step 1 調理実習を題材に考えてみよう

①自分のもっている知識を踏まえて自分一人で料理を作るとしたら、生かせるものは何ですか。

②自分のもっている技術を踏まえて自分一人で料理を作るとしたら、生かせるものは何ですか。

③マカロニグラタンと一緒に食べることを前提に、マカロニグラタンで足りなかった食品群の食品を踏まえた料理を考えましょう。

Step 2 話し合ってみよう

①生かせる知識には何がありましたか。	Step 3 メンバーの意見を聞いて新たな気付いたことなどを踏まえてもう一度考えてみよう
②生かせる技術には何がありましたか。	①自分一人で料理を作るとしたら、生かせる知識は何ですか。
③メンバーが選んだ料理は何ですか。	②自分一人で料理を作るとしたら生かせる技術は何ですか。
④メンバーがそれぞれの献立を選んだ理由は何ですか。	

Step 4 食生活の改善のために実践できることは何だろうか

Step 5 振り返ってみよう

テーマについて考えましたか？	*****
自分の考えを伝え、意見交換できましたか？	*****
自分の考えは深まりましたか？	*****
新しい課題を発見しましたか？	*****

【図3 アクションシート】

アクションシート (月 日 No.)

テーマ「 」

私は 授業を振り返って生活課題を設定しよう。

生活の課題は 具体的に生活課題の内容を書いてみよう。

その課題を 実際をやってみたことを詳しく説明しよう。

私は 解決しました。

私は 実際をやってみて、これからどうする？

年 組 番 名 前

シンキングシートを基に、実践する。

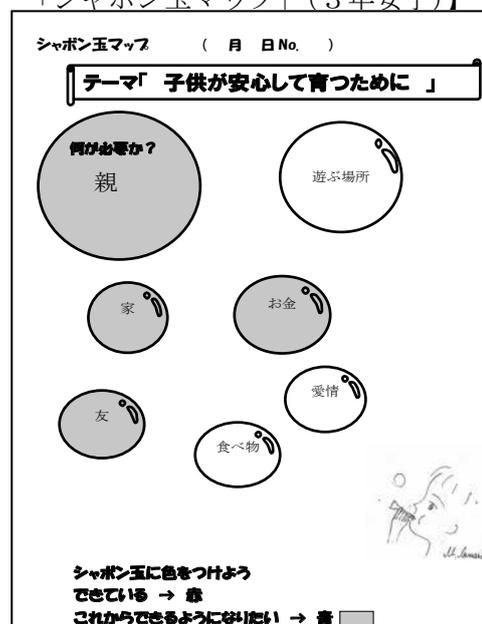
2 検証授業における各単元の具体的な方法

(1) 子供と関わろうとする意識を高め、子供を支える一員として課題解決を図る授業実践

家庭総合「子どもとかかわる」の単元の授業である。「シャボン玉マップ」のテーマを「子供が安心して育つために」と設定した。「愛情」「お金」「安全な環境」などの他にも「子育ての知識」「保育者同士の協力」などに気付かせ、いろいろな意見を発表させて共有していく。いつか親になるためにという意識と、社会全体で子供が育っていく中で自分も無関係ではないという意識をもち、主体的に学ぶようにする。「シンキングシート」では、「妊娠体験から母体の健康と自己の課題について考える」をテーマに、妊婦疑似体験用教材を用いたグループワークを行い、子育てと社会の課題や自己の果たす役割について、深く考えさせていく。

高校生にとって子育ては身近に乳幼児が存在しないなど、改善を図ることが難しいことから、「アクションシート」は、課題解決を目指すのではなく、子供に対する意識の変化や小さなことでも自分が課題だと捉えたことに対して、課題解決のために行動してみたなど、生徒の変容を見る。

【単元の始めに作成した
「シャボン玉マップ」(3年女子)】



(2) 食生活の実態を踏まえ、よりよい食生活への改善を図る力を高める授業実践

専門教科「家庭」の科目「フードデザイン」において、食生活の現状を理解させ、食生活を自らデザインする能力と態度の育成を目指し、学習目標を「高校生の食生活を改善するために自分ができること」とした。

授業において、3年生全員の3日間の食事記録の分析とアンケートから、高校生の食生活の実態を把握する。日本型食生活の特徴を学んだうえで、自らの食生活を振り返り、課題を見だし、「シンキングシート」を活用し、他者と意見を交わすなどの関わりによって、食生活に対する自らの思考を深めていく。

現在の自分の食生活での課題を認識し、「アクションシート」を活用しながら、すぐに生活にフィードバックさせることで、主体的に取り組む姿勢を育むことができると考える。

(3) 調理実習の学びを生かし、食生活の改善を図る力を高める授業実践

家庭基礎「生活をつくる 食生活をつくる」において、単元導入の際と調理実習事前学習の際に「シャボン玉マップ」を作成する。本校に通う生徒の多くは、小中学校で不登校を経験しているため調理実習などの経験が少なく、学校での学習に不安を抱えている。「シャボン玉マップ」を使用し、生徒の実態を正しく把握し、できる限り学習に対する不安感を取り除き、生徒一人一人が安心して授業に臨める学習環境を整える。

栄養と食品の関わりを学び、日常食を調理実習で行ったうえで「シンキングシート」を使って、食生活のまとめを行う。「シンキングシート」に取り組む際には、生徒同士が積極的に意見を出し合い、話しやすい雰囲気になるように努める。

「シンキングシート」で生徒の意識を高めてから、「アクションシート」を用いて生活を振

り返らせる。

いずれのワークシートも、生徒の実態に応じて、機会あるごとに繰り返し使用する。三つのワークシートを使って学習することで他者と力を合わせ、新しい価値を創造し、生活を主体的に営み行動する力を育てられると考える。

V 研究の内容

全体テーマ **思考力・判断力・表現力等をもつための授業改善**

高校部会テーマ **「思考力」、「基礎力」、「実践力」を育むための、主体的・協働的な学習の指導の在り方**

各教科等における「思考力」、「基礎力」、「実践力」の定義

思考力 生活における課題解決に向けて、適切に判断し試みる力

基礎力 生活に必要な基礎的・基本的な知識と技術を習得し、それらを活用し生活の課題を発見する力

実践力 他者と力を合わせ、新しい価値を創造し、生活を主体的に営み行動する力

高校部会テーマにおける現状と課題

現状 ・家庭生活において自分が生活の主体者となっていないため、実生活における課題が見いだせない。

・自分の考えや意見を伝えたり、他者の考えや意見を聞いたりして、よりよい解決策を見いだす機会が少ない。

課題 ・生徒自身の学ぶ意欲や関心を引き出し、主体的に生活する意識を高める。

・他者と相互に関わる経験を通して考えを深め、課題解決を図る。

高等学校家庭部会主題

生活を主体的に営み、問題解決に向けて行動する力を育む学習指導の在り方について

仮説

・単元の学習前に、これまでの家庭科の学習を振り返り、これからの学習において、自分の生活に何が必要で、各学習単位の中で生かせる知識と技術は何かを考え判断させることで、生活者としての主体性をもたせることができる。

・他者と関わり、家庭生活における自己の考えを深化させることで、問題の解決を図ったり、新たな課題を発見したりすることで、「やってみよう」という行動力を喚起することができる。

具体的方策

・生活者としての主体性をもたせるために、生徒が必要とする知識と技術について教員が事前に把握し、教員と生徒の間で学習内容及び学習目標の共有化を図ることで（シャボン玉マップの作成）、生徒の学ぶ意欲や関心を引き出すとともに、知識と体験が結びつく学習活動を行う。

・自己の家庭生活における問題解決に向けて自己の考えを深化させるために、他者と意見を交換し、よりよい問題解決の方法を見いだす学習活動を行い（シンキングシートの作成）、問題解決の過程や新たな課題発見までを記録させる学習活動を行う（アクションシートの作成）。

検証方法

・シャボン玉マップやシンキングシートの記述内容及び自己評価の内容から生徒の変容を読み取る。

・アクションシートの記録から、その取組や内容について評価し、生徒の変容を見る。

実践事例 1

科目名	家庭総合	学年	3 学年
-----	------	----	------

(1) 単元（題材）名、使用教材（教科書、副教材）

- ア 単元名：第1編 2章「子どもとかわる」
- イ 教科書：「家庭総合 パートナーシップでつくる未来」
- ウ 副教材：「高校生のための生活学」

(2) 単元（題材）の指導目標

- ・子供を取り巻く状況について、現状を知り、その課題を見だし、解決に向けて考える。
- ・生命の尊さ、子育ての意義について理解する。
- ・子供の接し方や心身の発達に関わるおもちゃづくりなどの技術を身に付ける。

(3) 評価規準

	ア 関心・意欲・態度	イ 思考・判断・表現	ウ 技術	エ 知識・理解
単元 の 評価 規準	子供の世界について、自分の子供の頃を思い起こしながら、興味・関心をもち、子供の生活について、積極的に子供と関わりながら、取り組もうとする態度と意欲を身に付けている。	子供の心身の発達、現在の子供を取り巻く状況や子育てを取り巻く子育ての環境について、課題を見だし、解決への考えを深め、表現する能力を身に付けている。	子供との接し方、子供の衣食住の選択、心身の発達に関わる物づくりなどに必要な技術を身に付けている。	生命の尊さ、子育ての意義について理解し、子供の心身の発達や生活について、必要な知識を身に付けている。

(4) 単元（題材）の指導と評価の計画（6時間扱い）

時間	学習活動	評価の観点				評価規準 (評価方法など)
		関	思	技	知	
第一次	<ul style="list-style-type: none"> ・シャボン玉マップを作成する。 ・ワークシート「子供を知る」をまとめる。 	●			●	<ul style="list-style-type: none"> ・シャボン玉マップに取り組んだか。[ア] ・新生児における保育者の関わりについて理解できたか。[エ]
第二次	<ul style="list-style-type: none"> ・保育人形を用いた抱っこ体験をする。 ・ワークシート「発達のすばらしさ」をまとめる。 	●	●	●		<ul style="list-style-type: none"> ・保育人形を用いて、新生児の抱き方を実習できたか。[ウ] ・子供の生活について理解し、積極的に子供と関わろうとしたか。[ア、イ]
第三次	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート「親になることを考えよう」をまとめる。 ・胎児の発育と母体の状況についてVTRを視聴し、胎児の発育と妊娠、出産に関わる母体の変化の概要を理解する。 	●		●	●	<ul style="list-style-type: none"> ・妊娠中の生活の様子や家族の協力の様子などを知り、親の気持ちになって考えたか。[ア、ウ、エ]

時間	学習活動	評価の観点				評価規準 (評価方法など)
		関	思	技	知	
第四次 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> シンキングシート「妊婦体験から、妊娠中の生活について考えよう」を作成する。 両性が関わって子供を生み育てることの意義を知る。 妊婦疑似体験用教材を用い、体験実習を行う。 ワークシート「アクションシート」を作成する。 	●	● ●			<ul style="list-style-type: none"> 妊婦の身体の状態と日常的な行動を実感できたか。[イ] グループワークを通じて意見を交換し、自己の考えを深めることができたか。[イ] 社会のために自分ができることをしようとする意欲がもてたか。[ア]
第五次	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート「子供の生活」をまとめる。 子供を取り巻く環境を理解し、子育てに関わる社会の役割を知る。 シンキングシート「少子化について考える」を作成する。 ワークシート「アクションシート」を作成する。 	●	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> 子供の生活習慣の形成と、衣食住の選択など、保育者として適切な関わり方を理解し、実践する技術が身に付いたか。[ウ、エ] グループワークを通じて意見交換し、自己の考えを深めたか。[イ] 社会のために自分ができることをしようとする意欲がもてたか。[ア]
第六次	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート「すこやかに育つ権利」に取り組む。 子供の権利と福祉について法令などから学習をする。 シャボン玉マップを振り返る。 	●			●	<ul style="list-style-type: none"> 集団保育の役割や子育ての社会支援制度を理解できたか。[エ] 子供が健やかに育つために自分ができることを考えるなど、学習した内容について関心や意欲を高めたか。[ア]

(5) 本時（全6時間中の4時間目）

ア 本時の目標

- (ア) 妊娠中の体の変化に伴った日常生活の過ごし方について理解する。
- (イ) グループ活動を通して、自分の意見を発表し、他者の意見を聞いて、妊娠中の女性のために家族や周囲の人々が配慮すべきことについて考えを深める。
- (ウ) 社会の一員として、母性保護を踏まえ、自分ができることは何かを考え、実践する。

イ 本時の展開

過程	時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準・方法 (ア～エ)
導入	5分	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習内容を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 妊婦体験の教材を装着して、グループ活動に取り組み、課題を考えることを説明する。 ワークシート「シンキングシート」を配布する。 	
		妊婦体験から、母体の健康と自己の課題について考えよう		

過程	時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準・方法 (ア～エ)
展 開	35 分	<ul style="list-style-type: none"> ・シンキングシート 「Step1 考えてみよう」 に取り組み、自分の考えをまとめる。 ・「Step2 話し合ってみよう」 2グループに分かれ、各自の意見を交換し、体験してみたいこと、知りたいことをまとめ、体験者を決める。 ・体験者は、妊婦体験用教材を装着して活動し、感想を述べる。観察者は体験者の様子をワークシート Step 2の備考欄に記録する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・妊娠中の生活についてイメージし、疑問に思うこと、知りたいことを記入させる。 ・妊娠中の身体の変化を踏まえ、「歩く」、「立つ」、「いすに座る」、「かがむ」、「靴下をはく」など、普段自分たちが不自由なく行っている活動を体験するよう助言する。 ・体験内容に危険が伴うことがないよう、十分に配慮する。 ・妊婦体験用教材を装着させる。 ・他のグループの実習状況もよく観察するように促す。 ・妊婦体験の実習をさせる。 ・急に妊娠後期のような体型、体重になるわけではなく、徐々にそうなるので、精神的にも、身体的にも順応していくことを知らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・イ（ワークシート） ・エ（ワークシート）
		<ul style="list-style-type: none"> ・「Step3 もう一度考えてみよう」 体験（観察）して気付いたことを記入し、発表する。 ・「Step4 これからの課題はなんだろう」。 高校生として何ができるか、考える。 ・体験を振り返り、自己の課題を整理する。 ・自己評価を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・気付いたこと、発見したことを振り返り、将来、親となるための自己の課題、社会全体で子育てを支えていくために、自分ができることはなにか考えさせる。 ・「電車で席を譲る」、「重い荷物を持ってあげる」など、高校生でもできることに気付かせる。 ・自己評価の記入について、説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・イ、ウ（ワークシート） ・ア（観察）
ま と め	10 分	<ul style="list-style-type: none"> ・「アクションシート」を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の授業の中で、発見した生活課題を踏まえ、高校生ができることは何か、「アクションシート」に記入させる。 ・シートに記入した課題を解決するための実践的な行動を行い、シートを完成させることを説明する。 ・シートの提出について説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ア（ワークシート）

(6) 本時の振り返り

ア 兄弟姉妹も少なく身内に乳幼児がいる生徒も少なく、妊婦や乳幼児と触れ合ったことがない生徒が多いため、妊婦の疑似体験を通して、生徒が自分や家族のこととして捉えられるようにした。体験的な活動を取り入れることで、妊婦の身体的な特徴について理解を深め、安全に生活するためにどのような配慮が必要か、高校生として自分に何ができるかを考えさせることとした。

イ グループワークを通して、体験者を決め、どのような体験をしたいか話し合わせた。その中で、自分の考えを述べたり、他者の意見を聞いたりして体験内容を考えさせ、体験者だけでなく観察者にも主体性をもたせることとした。

ウ ワークシート「シンキングシート」には、考える視点を吹き出しに記した。その結果、体験者の様子をよく観察して記入したり、体験者に感想を直接聞いたりする場面が見られ、主体的なグループ活動となった。記述した内容を見ると、具体的で実践的な内容が見られた。

エ ワークシート「シンキングシート」のStep 4「これからの課題」の欄に吹き出しをつけて観点を記載し、その観点に沿って記入するよう指導したことで、「アクションシート」の課題解決に向けての意識を明確にし、行動変容を促すこととした。



【妊娠疑似体験教材】
重さ 約8 kg (アイセック
2015年新版家庭科カタログ)

(7) 成果と課題

ア ワークシートを活用した成果

単元の始めに、ワークシート「シャボン玉マップ」を活用して、保育の学習に当たって「生徒が必要としていること」を明らかにさせた。これにより妊娠や子育てについては「まだまだ先のこと」という意識が強い高校生に対して、関心・意欲を高めることができ、熱心に質問したり、積極的に発言する生徒が増えたと感じている。また、限られた時間の中で何を重点的に指導すべきか、授業計画を立てる上でも役立った。

ワークシート「シンキングシート」は、考える視点の吹き出しがないシンキングシートを説明しながら記入させる方式と、考える視点の吹き出しを付し、教員の説明を少なくしたシンキングシートを比較すると、吹き出しを付したシンキングシートを活用した方が、生徒は思考を高めることができ、具体的な記述となり記述量も増えた。

ワークシート「アクションシート」は、課題解決を実践する内容のため、やってみたがうまくできなかったという生徒はまとめにくかったようである。

三つのワークシートを連動することにより、これまでは知識重視だった保育の

【シャボン玉マップの変容】

○単元の初めに作成

シャボン玉マップ (月 日 No.)

テーマ「子供が安心して育つために」

何が重要か？

お金

親

やさしい世界

福

セコム

司法

シャボン玉に色をつけよう
できている → 緑
これからできるようにがんばりたい → 青

○単元のまとめで作成

シャボン玉マップ (月 日 No.)

テーマ「子供が安心して育つために」

何が重要か？

お金

保育所や幼稚園の数

やさしい世界

出産休(産前休暇)育児休暇

知識

席を譲る、座らない

必要なものの内容と生かせる知識等の記述が増えた。

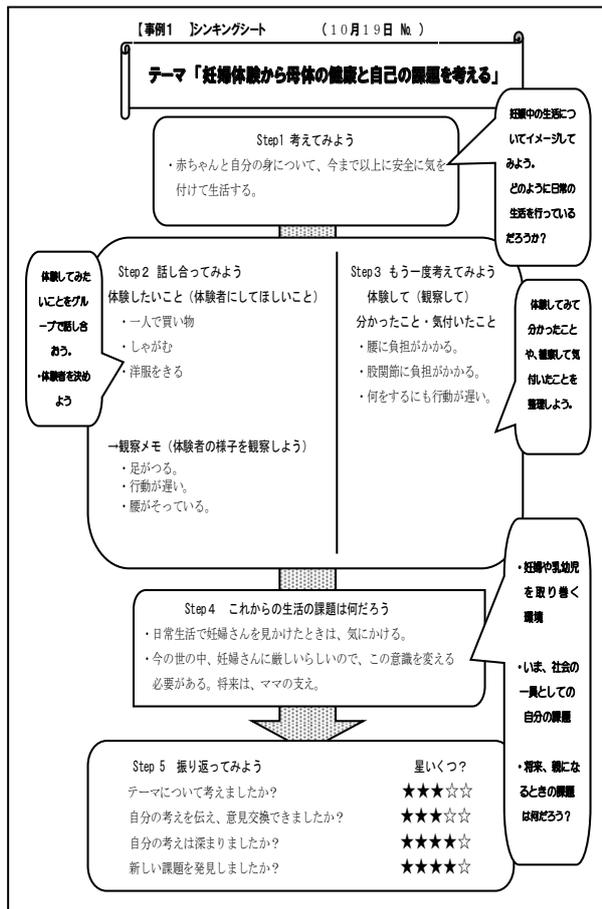
シャボン玉に色をつけよう
できている → 緑
これからできるようにがんばりたい → 青

授業に、実践的な課題解決に向けての取組が加わり、生徒たちは、社会全体で子育てを支えるために現在の自分たちができると、将来親になったとき、妊娠中から両性が協力することの大切さを理解し、行動できる実践力を養うことができた。

イ 行動変容を促すという課題

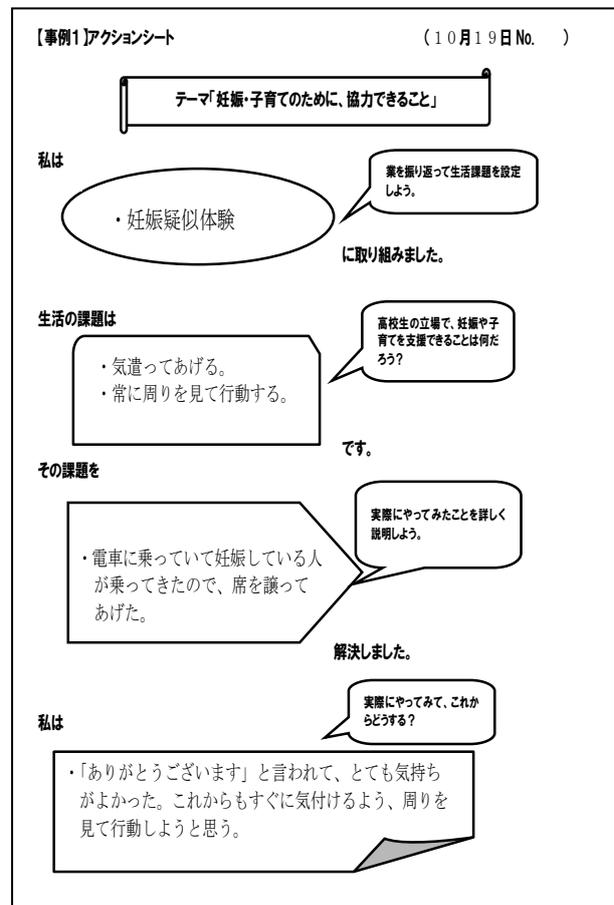
本時の授業目標は、「社会の一員として、母性保護を踏まえ、自分ができることは何かを考え、実践する」こととした。妊娠疑似体験を通して、高校生の自分たちに何ができるのか、すぐに実践できることを考えさせ、ワークシート「アクションシート」の取組を授業終了後の課題とした。生徒の取組を見ると「バスで席を譲った」、「ベビーカーのために道をあけた」、「ドアを開けてあげた」など、具体的な行動をしたという生徒と、注意して見ていたけれど、妊婦に出会えなかったので何もできなかった」という生徒も複数いた。

生徒の取組から、課題解決に向けて実際に取り組みなかった生徒への指導について検討する必要がある。また、より一層の行動の変容となるよう、社会の一員としての自覚や行動の継続性をもたせるためには、継続した指導が必要である。



作成した
【アクションシート】(男子) →

←作成した
【シンキングシート】(女子)



実践事例2

科目名	フードデザイン	学年	3 学年
-----	---------	----	------

(1) 単元（題材）名、使用教材（教科書、副教材）

- ア 単元名：第3章 献立と調理
 イ 教科書：フードデザイン Cooking&arrangement

(2) 単元（題材）の指導目標

- ・日本型食生活の特徴を知る。
- ・行事食、郷土食など伝統的な食とその背景にあるものを理解し、食文化への関心を深める。
- ・食生活における課題を把握し、解決に向けて行動することができる。
- ・学んだことを家庭で実践し、食育の推進を図る。
- ・主体的に食生活を営むために必要な食材選択の知識や調理などの技術を身に付ける。
- ・ライフステージに合わせた献立作成ができる。

(3) 評価規準

	ア 関心・意欲・態度	イ 思考・判断・表現	ウ 技能	エ 知識・理解
単元 の 評価 規準	栄養、食品、調理などの食生活の科学と文化に関心をもち、食育の推進に向けて積極的に取り組もうとする態度と意欲を身に付けている。	自分の食生活の問題点を見だし、その解決を目指して思考を深め、食育の推進に向けて創意工夫し、表現する能力を身に付けている。	栄養、食品、調理、献立など、食生活を営むために必要な技術を身に付けている。	栄養、食品、調理、献立、食品衛生など、主体的な食生活を営むために必要な知識を身に付けている。

(4) 単元（題材）の指導と評価の計画（10時間扱い）

時間	学習活動	評価の観点				評価規準 (評価方法など)
		関	思	技	知	
第一 次	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート「シャボン玉マップ」を作成する。 ・3日間の食事記録をつける。 ・高校生の食事について調べる（3学年生徒の食事記録より）。 ・調べて気付いたことをワークシート「シンキングシート」にまとめる。 	●	● ●		●	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの食生活の現状と課題を認識しているか。[ア、イ] ・高校生の食生活の現状と課題について理解しているか。[イ、エ]
第二 次	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート「シンキングシート」にまとめた内容を発表する。 ・日本型食生活について学ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ○2人組の班を作る。 ○高校生の食生活の問題点について、解決策を考える（KJ法）。 ○発表用にプリントにまとめる。 ○ポスターを作成する。 		● ● ●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> ・適切に発表しているか。[ウ] ・日本型食生活について理解しているか。[エ] ・他班の発表を聞いて新たな課題を見いだしているか。[イ] ・課題を分類し、分析しているか。[イ] ・メンバーと協力して課題を整理し、原因や解決策を考えているか。[イ]

第二次	○本時のシンキングシートと食事記録を振り返り、ワークシート「アクションシート」を作成する。	●				・整理した課題の中から自らの課題を見だし、改善しようと取り組んでいるか。[ア]
第三次 (六時…本時)	・発表資料を整理し、まとめる。 ・班ごとに「高校生の食生活」について、発表する。 ・発表を聞いて、ワークシート「シンキングシート」、コメント表をまとめる。 ・ワークシート「アクションシート」を作成する。	●	●	●	●	・分かりやすく情報を収集し、整理しているか。[ウ] ・他者に分かりやすく発表しているか。[ウ] ・高校生が見て、「やってみよう」と行動変容につながるポスター作成ができているか。[イ] ・ワークシート「アクションシート」に意欲的に取り組んでいるか。[ア]
第四次	・伝統的な食生活や郷土料理についてまとめる。 ・今まで学んだ内容を踏まえ、「高校生に適した昼食」について、献立を作成する。		●		●	・前時までの学習内容を踏まえた献立について、考え、立案しているか。[イ、エ]
第五次	・調理実習 「日本型食生活や伝統的な食生活を意識した、高校生の食事作り」			●	●	・前時までの内容を踏まえた調理内容となっているか。[エ] ・安全・衛生面に配慮し、実習に取り組んでいるか。[ウ]

(5) 本時（全 10 時間中の 6 時間目）

ア 本時の目標

- (ア) 高校生の食生活の課題を捉え、同世代の行動変容のためにどのような働きかけが良いかを考え提案する。
- (イ) 自己の食生活の課題について、解決策を考える。

イ 本時の展開

過程	時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準・方法 (ア～エ)
導入	5分	<ul style="list-style-type: none"> 前時までの学習について振り返る。 発表の手順について理解する。 発表資料を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 前時までの作業と本時の学習内容について理解させる。 発表の流れについて説明する。 資料を配布する。 	
高校生に食生活改善を提案してみよう				
展開	15分	<ul style="list-style-type: none"> 課題「高校生の食生活について」各班ごとに作成したプリントと食育ポスターを用いて、発表を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 時間を計測しながら、発表させる（各班5分以内）。各班ごとに事前に配布したプリントを基に、「課題と原因」、「解決策」について発表させる。食育ポスターを見せ、他の人に呼び掛ける形式で発表させる。 	イ 観察、発表内容・態度、シンキングシート、食育ポスター

展 開	20 分	<ul style="list-style-type: none"> 各班の終了後、シンキングシート、コメント表を記入する（各5分）。 他の班からのコメント表を受け取り、シンキングシートに意見を記入する。また、それを受けてどう考えを深めたかについても記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> シンキングシートに他班の発表を聞いて「感じたこと」、「考えたこと」、「考えが深まったこと」を記入させる。 コメント表には、他班の「良かった点」、「もっとこうすればよい」などアドバイスを中心に記入させる。 机間指導しながら、シンキングシート、コメント表の記入について、足りない部分に気付かせる。 他班からのコメント表や発表を聞いて、自分の考えが深まった点や新たに気付いた点を中心に記入させる。 	<p>イ 観察、シンキングシート、コメント表、</p> <p>イ 観察、シンキングシート、コメント表</p>
ま と め	10 分	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート「アクションシート」を作成する。 次時までの課題について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 本日の授業の中で、生活課題を見いだし、「アクションシート」に記入させる。確実に記入できているか、机間指導しながら確認する。 次の授業までに、見いだした課題解決に向けて実践し、「アクションシート」を完成させることを説明する。 アクションシートの提出について、説明する。 	<p>ア 観察、アクションシート</p>

(6) 本時の振り返り

ア 単元の始めに行ったワークシート「シャボン玉マップ」の作成では、よりよい食生活のためには、「栄養の知識とそのバランス」、「1日に3食食べること」、「野菜を食べること」について、できていないと答えている。そこで、本単元では必修科目「家庭総合」で3学年の生徒全員に取り組ませた食事記録の集計と分析に取り組ませ、高校生の食生活の問題点を見だし、その解決策を考え、食育ポスターとして提案することを目的とした。

イ 発表することに不慣れな生徒であるため、どのような内容を発表するか項目を示し、発表原稿を作成することにした。また、食育ポスターは、高校生に発信することを意識させ作成することにした。発表の際は、各自が他班についてコメント表を記入し、フィードバックさせることで、考え提案したことについて振り返りができるようにした。

ウ ワークシート「シンキングシート」は、自分で考えた課題と解決策、他班の考えた課題と解決策を記入することとし、シンキングシートを基に、ワークシート「アクションシート」を活用し、『今すぐ実践できる課題は何か』を考えさせ、授業後の課題として、1週間実践させることとした。

(7) 成果と課題

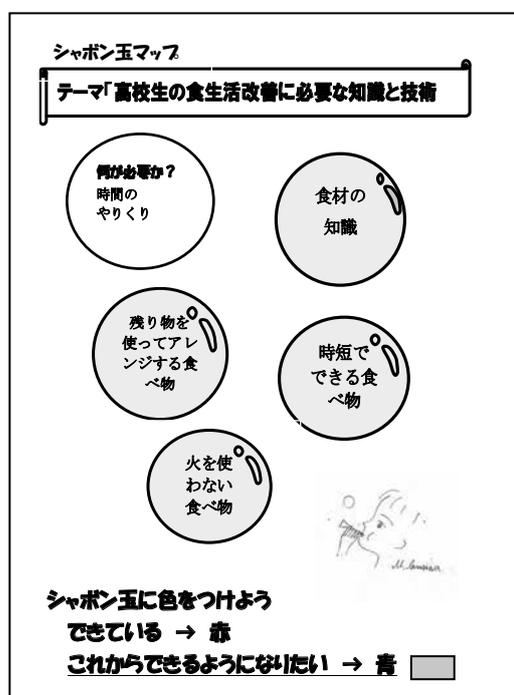
ア ワークシート「シャボン玉マップ」の活用

教師が「高校生がこれから何を学ばば、将来生活の主体者となったときに生活に生かすことができるか」を知るために、ワークシート「シャボン玉マップ」の作成の際のテ

テーマを「よりよい食生活を送るために」とすると、「できていること」と「これからできるようにになりたい」ことについて生徒が記述したのは、「栄養」、「バランス」、「野菜」、「お金」、「3食食べる」などが多く、記述を生かして具体的な学習目標を設定することが困難であった。そこで、テーマを「高校生の食生活を改善するのに必要な知識と技術」とすると、「食材の加工の仕方」、「残り物のアレンジ」、「短時間でできるもの」、「盛り付けや色合い」、「火を使わない料理」など、より自分が主体となって行う時の視点に近づき、「これからできるようにになりたい（必要だと考えるが、現時点ではできない）」の色（青色）を塗る率が高くなった。また、単元の終わりに同じテーマでワークシート「シャボン玉マップ」を作成させると、学習した後にも、「これからできるようにになりたい」記述が増えるなど、自己の食生活における新たな課題に気付かせる機会にもなることが分かった。

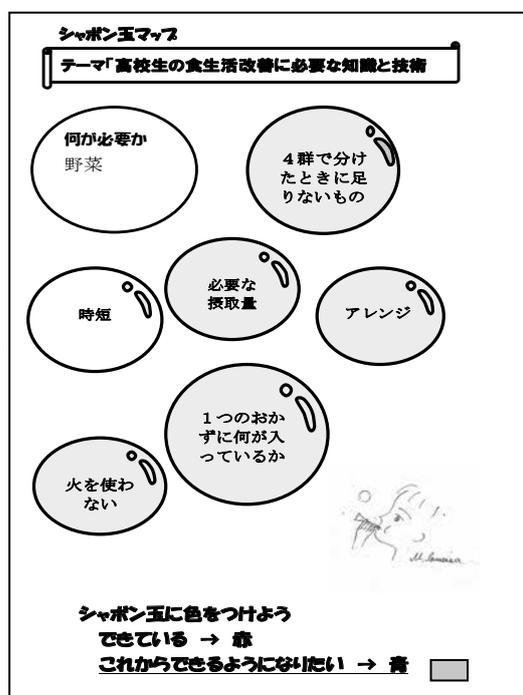
【シャボン玉マップ】

○単元の始め（女子）



【シャボン玉マップ】

○単元のまとめ（女子）



イ ワークシート「シンキングシート」、「アクションシート」の活用について

ワークシート「シンキングシート」は、授業の流れや生徒自身の思考の流れに沿って活用することができる。生徒の様子から、特に Step 4 で自分の思考を深化させる際に、前の Step 3 で整理したことを振り返り、考えを整理することができることが分かった。

自己評価では、「テーマについて考えましたか」、「自分の考えは深まりましたか」の問いに対し、☆印を3～5個ぬりつぶす生徒がほとんどで、テーマについて考えるとともに、他者の考えを聞くことによって自分の考えを深めることができた様子が伺えた。

「アクションシート」では、自分で課題を設定するため取り組みやすく、ほぼ全ての生徒が1週間取り組むことができていた。

【シンキングシート】 B生徒（女子）

【事例2】シンキングシート (月 日 No)

テーマ「高校生が考える、高校生の食生活改善」

Step1 高校生に食生活改善を提案してみよう

①班で考えた課題
・三食そろっていない。一汁三菜がそろわない。

②班で考えた解決策
・集中力をつけるために朝ご飯を食べるようにする。

Step2 他班の発表を聞いてみよう

①他班の考えた課題 ・汁物を食べている人が少ない。 ・単品の料理が多い。	①他班の考えた課題 ・欠食が多い。 ・一汁三菜がそろっていない。
②他班の考えた解決策 ・家にあるものや野菜を摂取 ・単品+αで野菜 ・コンビニなどで簡単なものを買う。	②他班の考えた解決策 ・食の意識を高める。 ・自分で調理したり孤食を減らす。
③発表を聞いて気付いたこと、考えたこと ・単品だけでなくサラダなどを追加する。	③発表を聞いて気付いたこと、考えたこと ・朝食を食べることで体温が上がり、目覚める。

Step3 今すぐ実践できる食生活改善は何か考えてみよう

・単品食に+αをする。
・朝食をとる。

Step4 振り返ってみよう

テーマについて考えましたか？	★★★★★
自分の考えを伝え、意見交換できましたか？	★★★★☆☆
自分の考えは深まりましたか？	★★★★☆☆
新しい課題を発見しましたか？	★★★★☆☆

【アクションシート】 B生徒（女子）

アクションシート (9月28日 No)

テーマ「高校生が考える、高校生の食生活改善」

私は

朝ごはんを食べる

授業を振り返って生活課題を設定しよう。

に取り組みました。

生活の課題は

いつもより少し余裕をもって起きてパンを食べる

具体的に生活課題の内容を書いてみよう。

です。

その課題を

起きて準備をして全て終わらせてから朝食をとるようにして

実際にやってみたことを詳しく説明しよう。

解決しました。

私は

これから頑張る。

実際にやってみて、これからどうする？

実践事例3

科目名	家庭基礎	学年	1 学年
-----	------	----	------

(1) 単元（題材）名、使用教材（教科書、副教材）

- ア 単元名：2編 生活をつくる 1章 食生活をつくる
イ 教科書：家庭基礎

(2) 単元（題材）の指導目標

- ・食生活に関わる情報を収集・整理し、適切に判断する。
- ・自己の食生活を振り返り、青年期における日々の食事の重要性について理解する。
- ・調理実習を通してよりよい食生活の改善について実践する。

(3) 評価規準

	ア 関心・意欲・態度	イ 思考・判断・表現	ウ 技能	エ 知識・理解
単元の評価規準	栄養、食品、調理及び食品衛生などの食生活の科学と文化、安全と環境に配慮した食生活に関心を持ち、意欲をもって学習活動に取り組んでいる。	栄養、食品、調理及び食品衛生などについて課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、表現している。	調理実習を通して、主体的に食生活を営むために必要な食品の選択、調理、食生活の管理などの技術を身に付けている。	栄養、食品、調理及び食品衛生などについて、科学的に理解し、安全と環境に配慮した食生活を主体的に営むために必要な知識を身に付けている。

(4) 単元（題材）の指導と評価の計画（16時間扱い）

時間	学習活動	評価の観点				評価規準 (評価方法など)
		関	思	技	知	
第一次	<ul style="list-style-type: none"> ・DVD「食&ユアヒューチャー」 ・食生活の木 		●		●	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の食生活や仲間の食生活を振り返り、食生活の傾向と問題点について考えられたか。[イ] ・過度の痩身又は肥満の心身の健康に及ぼす影響など青年期の食事の重要性について理解できたか。[エ]
第二次	<ul style="list-style-type: none"> ・調理実習にあたって ・爪の長さチェック ・実習室の使い方 ・第1回調理実習の説明 ・食品衛生 ・DVD「調理実習の基礎の基礎」 ・レポートの書き方説明 	●			●	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の食生活について関心を持ち、意欲をもって調理実習に取り組もうとしているか。[ア] ・調理器具の特徴や取り扱い方について理解しているか。[エ]
第三次	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回調理実習 マカロニグラタン ・包丁の取扱い、切り方 		●		●	<ul style="list-style-type: none"> ・調理実習を通して疑問に思ったことや発見したことをワークシートにまとめているか。[イ] ・実習中の役割を見いだし、取り組んでいるか。[イ] ・安全に配慮して実習に取り組んでいるか。[ウ]
第四次	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養と食品のかかわり① ・五大栄養素を摂る意味を知る ・五大栄養素の説明 				●	<ul style="list-style-type: none"> ・体のなかの成分と五大栄養素の関係について理解しているか。[エ]
第五次	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養と食品のかかわり② 	●				<ul style="list-style-type: none"> ・食品成分表を通して、食品について興味・関心をもっているか。[ア]
第六次 (十一時…本時)	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめ「調理実習を通して食生活の改善を図ろう」 	●	●		●	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見を分かりやすく伝えようと工夫しているか。[ア] ・食に関わる情報を適切に判断し、思考を深めているか。[イ] ・調理実習の献立に不足している食品群が分かり、それを補う料理を選択できるか。[エ]
第七次	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回調理実習の説明 	●			●	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の食生活について関心を持ち、意欲をもって調理実習に取り組もうとしているか。[ア] ・調理器具の特徴や取り扱い方について理解しているか。[エ]
第八次	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回調理実習「おにぎり 豚汁」 	●			●	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の食生活について関心を持ち、意欲をもって調理実習に取り組もうとしているか。[ア] ・食生活の自立に必要な基礎的な調理ができる技術を身に付けているか。[ウ] ・調理器具の特徴や取り扱い方について理解しているか。[エ]

(5) 本時 (16 時間中の 11 時間目)

ア 本時の目標

「調理実習を通して食生活の改善を図ろう」のテーマで話し合うための準備をする。

イ 本時の展開

過程	時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点・配慮事項	評価規準・方法 (ア～エ)
導入	10分	<ul style="list-style-type: none"> 授業の流れを確認する。 ワークシート「シンキングシート」を確認する。 発表の手順について、理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の流れを示し、生徒に見通しをもたせて授業に臨ませ、安心して授業に取り組ませる。 ワークシートを返却する。 ワークシート「シンキングシート」を配布する。 ワークシート「シンキングシート」の Step 1 と Step 2 の記入について説明し、Step 2 の発表の流れについて説明する。 	
「調理実習を通して食生活の改善を図ろう」のテーマで、話し合うための準備をしよう				
展開	15分	<ul style="list-style-type: none"> 返却されたワークシートを見ながらワークシート「シンキングシート」の Step 1 を記入する。 話し合いの準備をする。 グループ内でメンバー一人一人が Step 1 の記述内容について発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> タイマーにて作業時間を計る。作業終了を予告するアラームと作業終了を知らせるアラームを鳴らし、生徒たちが、時間内に作業を終えるように支援する。 机間指導をしながら、Step 1 の記入に必要な資料に気付かせる。 話し合いの準備をさせる。 話し合い開始：アラームを鳴らす。 ワークシート「シンキングシート」の記述内容を基に、Step 1 を発表させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ア (観察) イ、エ (ワークシート)
	15分	<ul style="list-style-type: none"> メンバーの発表内容について、Step 2 にメモをとる。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート「シンキングシート」の Step 2 に、メンバーの発表を聞いて発表内容を記入させる。 机間指導をしながら、シンキングシート Step 2 の記入について確認し、記入不足の生徒には「単語でもかまわないので記入しよう」などと声掛けをし、必ず記述できるよう支援する。 話し合い終了：アラームを鳴らす。 	<ul style="list-style-type: none"> ア (観察) イ、エ (ワークシート)
まとめ	5分	<ul style="list-style-type: none"> 各班の話し合いの内容について確認する。 次の時間の学習内容について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 各グループで話し合った内容について、代表生徒に発表させ、話し合った内容について共有させ、次の授業につなげさせる。 次の時間に Step 3、Step 4、Step 5 に取り組み、ワークシート「シンキングシート」を完成させることを説明する。 	

(6) 本時の振り返り

ア 調理実習「マカロニグラタン」の献立に不足している食品群から、一食分としてより

よい献立になるよう補う料理を考える際に、これまでの知識を生かして考えるだけでなく、教員が用意した料理本の活用を促し、生徒がより適切な料理について考え判断していた。

イ ワークシート「シンキングシート」を用いて、調理実習の班ごとに食生活の改善について話し合い、思考を深めさせた。Step 1 で、Step 2 の話し合いで班員に説明できるよう、自己の考えを整理させたことで、話し合いもスムーズであった。生徒一人一人が活発に活動し、参観していた教員からも楽しそうだったなど、生徒が自主的に取り組んでいる様子は、参観したどの教員からも予想以上の反響があった。

ウ 本時で活用した「シンキングシート」のように、決められた解を埋めるワークシートではない場合、生徒は何を書いているのか戸惑ってしまったり、何を答えていいのか分からずに手をつけられないことが想定されたため、Step 1 及び Step 2 の設問を詳しく設定した。Step 1 は、予想以上に生徒が取り組むことができたが、あなたがもつ知識、あなたがもつ技術という設問について、「知識」を「知っていること」、「技術」を「できること」と説明し、「包丁を使うこと」など、具体例を示さないと生徒自身の考えを引き出せないことがあった。

Step 2 では生徒間の質疑応答が活発になる活動を想定していたが、ワークシートの設問に沿って話し合いを進めていくと、Step 1 で調べたり、考えたりした自分の意見をメンバーが一人一人発表するという活動が中心になってしまった。Step 2 の設問が「メンバー全員で他のグループに負けない最良の献立を考えよう」であったならば、持ち寄った意見を統合し、よりよい解となるような話し合いとなったように思う。

(7) 成果と課題

ア ワークシートの設問について

ワークシート「シャボン玉マップ」を単元の始めに作成する際に、テーマ設定を「食生活」としたために、生徒は惑いを見せ、「肉」、「味」などの記述が目立ち、これまでの家庭科の学習を振り返って記述する様子は見られなかった。再度、テーマを「自分一人で料理を作るとしたら、調理するときに重視すること」、「自分一人で料理を作るとしたら、料理を考えるとときに重視すること」とし、作成させると、「調理のとき重視すること」の回答として、味や味付け、手軽さ、片付けやすさ、早く作るなど手順に関すること、量などの記述が多く見られた。「料理を考えるとときに重視すること」として、栄養バランス、カロリー、量などの記述が多く見られた。具体的に考えさせるテーマに沿って作成させると、その後の授業展開につながるような記述が目立った。

ワークシート「シンキングシート」は、グループ内の話し合いが活発化するように、具体的な設問を設定するようにした。

生徒の記述内容を見てみると、「シャボン玉マップ」、「シンキングシート」、「アクションシート」の3枚のワークシートの記述内容に関連性が見られた生徒は、全てのワークシートを提出した生徒13名中6名であった。「シンキングシート」、「アクションシート」の2枚のワークシートの記述内容に関連性が見られた生徒は13名中4名、「シャボン玉マップ」、「シンキングシート」の2枚のワークシートの記述内容に関連性が見られた生

徒は、13名中2名であった。このことから、ワークシート「シンキングシート」を基に「アクションシート」を作成し実践する生徒が13名中10名に見られたのは、他者と関わり自己の考えを深化させ、問題の解決のために行動力を喚起することができたとおおむね判断してよいものとする。

イ アクティブラーニングでの教師側の準備

生徒がワークシート「シンキングシート」のStep1に対して、生徒が自ら考え整理することができるよう、教師は、それまでの授業において、適切な教材を用意し、準備する必要がある。また、生徒が適切な資料を選択しているか、生徒の実態に応じて、机間指導をしながら確認することが大切である。

【生徒A（男子）が作成したワークシート】

○シャボン玉マップ

シャボン玉マップ (月日No.)

テーマ「食生活」

何が必要?
栄養
バランス

米

おいしき

シャボン玉に色をつけよう
できている → 赤
これからできるようにしたい → 青

○シンキングシート

【事例3】シンキングシート 組番氏名

テーマ「調理実習を通して食生活の改善を図ろう」

Step1 調理実習を題材に考えてみよう
①自分のもっている知識を踏まえて自分一人で料理を作るとしたら、生かせるものはありますか。
・栄養バランスを考えて献立をたてられる。
②自分のもっている技術を踏まえて自分一人で料理を作るとしたら、生かせるものはありますか。
・包丁で野菜や肉などを料理にあわせて切る。
③マカロニグラタンと一緒に食べることを前提に、マカロニグラタンで足りなかった食品群の食品を踏まえた料理を考えよう。
・サクランボ入り豆乳プリン、ポテトサラダ
④③の料理にした理由はありますか。
・サクランボ入り豆乳プリンには、3群の果物と1群の卵、2群の豆・豆製品、4群の砂糖が入っていて、ポテトサラダには、3群のいも類など、足りない食品群をまかないつつ、おいしく食べられるから

Step2 話し合ってみよう
①生かせる知識には何がありましたか。
・栄養バランスを考える。
(それを踏まえた献立を考えられる。)
②生かせる技術には何がありましたか。
・フライパンで焼く。
③メンバーが選んだ料理は何ですか。
・いもと豆のトマトスープ
・いもと卵のサラダ
④メンバーがそれぞれその献立を選んだ理由は何ですか。
・グラタンに足りないいもと豆でトマトスープにすればちょうどよい
・栄養がいいから

Step3 メンバーの意見を聞いて新たに気付いたことなどを踏まえてもう一度考えてみよう
①自分一人で料理を作るとしたら、生かせる知識は何ですか。
・栄養バランスを考えて献立を考えられる。
・旬の食材を使って料理する。
・手早く料理する。
②自分一人で料理を作るとしたら生かせる技術は何ですか。
・様々な調理器具で作る料理に合わせた使い方ができる(包丁)

Step4 食生活の改善のために実践できることはなんだろう
・決めた時間に食べるようにする。
・夜食にしてもスープやサラダなど軽いものにする。

Step 5 振り返ってみよう
テーマについて考えましたか? ★★★★★
自分の考えを伝え、意見交換できましたか? ★★★★★
自分の考えは深まりましたか? ★★★★★
新しい課題を発見しましたか? ★★★★★

星いくつ?
★★★★★
★★★★★
★★★★★
★★★★★

○アクションシート

アクションシート

テーマ「食生活の改善のために実践できること」

私は調理実習の献立を題材に

食生活の改善

授業を振り返って生活課題を特定しよう。

に取り組みました。

生活の課題は

不規則な時間に食事をしてしまうこと

自分の食生活で問題だなと思ふことは何だろう。

です。

その課題を

決めた時間に食べるようにする。夜食にしてもスープやサラダなど軽いものにする

実際にやってみたことを詳しく説明しよう。Step4をヒントにしてもいいね。

解決しました。

私は

実際にやってみて、これからどうする?

翌日から胃もたれをしにくくなったのでこれからも続けようと思います。

VI 研究の成果

1 ワークシート「シャボン玉マップ」の活用による学習効果について

実践事例1では、シャボン玉マップを作成する際に、「子供が安心して育つために」というテーマで作成した。必要としている知識や技術のうち、既に生かすことができるもの(青色)として生徒が記述したことは、「お金」、「親の愛情」、「家族の仲がいい」、「教育」、「安全な社会」などが主な記述であった。これから身に付けたいことやできるようになりたいこと(赤色)として生徒が記述したことは、「環境」、「愛情」、「子育ての知識」、「地域のつながり」などが主な記述として見られた。

単元の始めに作成したシャボン玉マップでは、子育てに関しては何もできない、知識もないと感じている生徒が多かったが、授業のまとめとして学習の振り返りをさせた際に、再度、シャボン玉マップを作成させると、これからできるようになりたいことや必要なこととして、「周囲の協力」、「子育てに関する知識」、「制度や施設の充実」などに関する記述が増え、子供が安心して育つためには、助け合いや子育てを地域社会全体で支えていくなどの視点で考える生徒が増えた。

実践事例2では、生徒の食事記録の分析から気付いた食生活の課題について解決策を考え、食育ポスターを作り、提案した。また、昼食を自分で準備する機会が増える高校生にとって、どのような昼食がよいのか考えさせ、調理実習も行った。各ワークシートを活用することによって、課題を見だし、解決策を考え、実践するという一連の学習の流れがスムーズに進み、さらに家庭総合など他の科目で学んだ学習内容も生かしながら、より生徒の思考が深まる様子がうかがえた。

シャボン玉マップは生徒がこれまでの学習を振り返るとともに、これから学ぶべきことは何かを考えるきっかけとなった。また、教師にとっても年間授業計画に基づいて授業を展開する際に、授業の目標を見直す必要性を感ずるものにもなった。しかしながら、生徒の記述内容は、テーマの設定や教師の発問の仕方によって、大きく異なることも分かった。

実践事例3では、シャボン玉マップを作成する際のテーマ設定が、例えば、「食生活」というように具体的な内容でない場合、生徒は漠然としてしまうため、これまでの家庭科の学習を生かして考えを整理し、判断することが難しいことが分かった。そのため、再度、テーマをより具体的に設定したところ、家庭科の学習で既に学習してきたことを生かしながら考え、判断している記述が増えるようになった。

本部会の研究視点であるように、「生徒が生活者としての主体性をもって、家庭生活における課題を見出す視点」を育むためには、自分の生活は自分で創るということを踏まえ、生徒の生活の中にある身近な状況をテーマ設定に取り入れると生徒も取組やすいことが分かった。

教師が生徒の実態をどの程度把握したいのかを明確にした上で、シャボン玉マップを作成させることによって、授業の目標設定だけでなく生徒自身が改めて自己の習得した知識・技術を振り返ることにも活用することができることも分かった。

2 ワークシート「シンキングシート」、「アクションシート」の活用による学習効果について

シンキングシートは、当初は、どのような単元でも使用できるように、質問がシンプルな

形式を採用したが、書き方の説明に時間がかかり、何を書いてよいか迷う様子が見て取れたので、吹き出しを付けたり質問を具体的にするなどして、考える視点や書き方を指示することにした。その結果、話し合いに慣れていない生徒が多い場合でも、話し合いがスムーズとなり、生徒が考えを深め、記述量や内容も充実させることができた。また、生徒が自らの課題を把握する際に学習の流れや考えの変化を確認することにも利用できるものとなった。

アクションシートは、課題解決を実践する目的のため、簡単に記述できる書式にしたところ、全ての生徒（長期欠席者を除く）が実践し、アクションシートを提出した。これまで授業で習ったことを、家庭生活で実践する機会があまりなかった生徒に対して、きっかけを与えることで行動変容につながった。アクションシートは、年間を通じて何度か取り組むことで、年度の終わりに1年間の学習や自らの課題を振り返ることにも利用できると思う。

以上のことから、ワークシート「シャボン玉マップ」を活用することで、生徒が必要としている知識や技術を捉え、授業の目標を見直しながら授業を行うことができた。「シンキングシート」、「アクションシート」も併せて活用することで、自分の生活を振り返り、他者との関わりを通して主体的に生活を営む視点を持ち、身近にできることから課題を解決するために、「やってみよう」と行動力を喚起することができた。

VII 今後の課題

1 生徒の実践的な取組の継続性について

実践事例2では、単元のまとめの授業で、「日本型食生活や伝統的な食生活を意識した、高校生の食事作り」をテーマに生徒同士で話し合い、献立作成し、調理実習を行った。結果として、「野菜が多く摂れる」、「汁物がある」、「時間短縮でできる」献立となり、これは、生徒が単元の始めに食事記録を集計・分析したことを踏まえ、自分たちの食生活を改善する献立となった。このことから、これまでの授業の中で考えたことが献立作成にも生かされていることが分かる、しかし、生徒が家庭生活において、食生活の改善を継続して実践できるかどうかについては難しく、様々な機会を捉えて、繰り返し家庭生活で実践することに取り組ませることが継続性につながるのではないかと考える。

生徒自身が時間を効果的に活用し、課題解決に向けて思いついた取組について、実際に実践することを積み重ねる機会を授業で計画していくことで、ささいなことでも「やった」、「できた」という自信につながり、「やってみよう」という意欲にもつながるといえる。

ささいな実践でもやってみることを後押しすることで、家庭科の学習内容である「ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動」への取組も、より一層取り組みやすくなると考えられる。学習したことについて、家庭生活、地域社会を振り返って考えさせ、よりよい生活に向けて改善を図る視点をもたせるように授業を展開することが大切であると思う。

2 授業目標の設定について

本研究では、シャボン玉マップを作成することにより、教員と生徒の間で学習内容及び学習目標の共有化を図ることとした。高等学校における家庭科は、これまで学習してきた小学校「家庭科」、中学校「技術・家庭（家庭分野）」における学習内容を踏まえるとともに、生徒の実態を的確に把握し、授業を展開する必要がある。授業を展開する際には、高等学校家庭科の教科目標をどのような授業を展開すれば達成できるのか、十分に検討する必要がある。

平成27年度 教育研究員名簿

高等学校・家庭

学校名	課程	職名	氏名
都立淵江高等学校	全日制	主任教諭	倉本 直子
都立大江戸高等学校	定時制	教諭	鈴木 麻理子
都立町田工業高等学校	全日制	主任教諭	◎岩澤 未奈

◎ 世話人

〔担当〕 東京都教育庁指導部高等学校教育指導課 指導主事 金澤 正美

平成 27 年度
教育研究員研究報告書

高等学校・家庭

東京都教育委員会印刷物登録

〔平成 27 年度第 197 号〕
平成 28 年 3 月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号
電話番号 (03) 5320-6849
印刷会社 正和商事株式会社